# 14 『宇治拾遺物語』

昔、＊物の（ア）わづらひし所に、物の怪＊わたしふに、物の怪、＊物付きにつきて（イ）言ふやう、「①おのれは、たたりの物の怪にてもらず。＊うかれて、まかりとほりつるなり。＊塚屋に子どもなど侍るが、物をほしがりつれば、かやうの所には、食ひ物、＊ちろぼふものぞかしとて、まうで来つるなり。＊しとぎばし食べて、まかりなん」と言へば、しとぎをせさせて、＊一とらせたれば、すこし食ひて、「＊あな、むまや、あな、むまや」と言ふ。「②この女の、しとぎほしかりければ、③そら物つきてかく言ふ」と、＊にくみあへり。

「紙はりて、これ、つつみて、まかりて、＊たうめや子どもなどに食はせん」と言へば、紙を二枚、＊ひきちがへて、つつみたれば、大きやかなるを、腰についはさみたれば、胸にさしあがりてあり。かくて、「＊追ひ給へ。まかりなん」と、＊に言へば、「追へ、追へ」と言へば、立ちあがりて、倒れふしぬ。しばしばかりありて、やがておきあがりたるに、ふところなる物、④さらになし。⑤せにけるこそ、不思議なれ。

語注

物の怪＝人間に取り付いて病や不幸をもたらす霊やなどのこと。

わたし候ふ程に＝乗り移らせましたところ。

物付き＝して物の怪を宿らせる人のこと。

うかれて＝さまよい歩いて。

塚屋＝墓地にある小屋のこと。

ちろぼふものぞかし＝散らばっているものだよ。

しとぎばし＝しとぎでも。「しとぎ」は米の粉で作った。「ばし」は強調の係助詞。

一折敷＝角盆にいっぱい。

あな、むまや＝ああ、うまい。

にくみあへり＝皆で非難した。

たうめ＝老狐。

ひきちがへて＝互い違いにして。

追ひ給へ。まかりなん＝追い払ってください。退散しましょう。

験者＝の秘法によって、物の怪などを退散させる人。修験者。

要約

　食べ物を求めて狐が人間に取り付き、「しとぎ」を得て立ち去る。

問1　波線部（ア）「わづらひし」、（イ）「言ふやう」について、それぞれ現代仮名づかいに直せ。（3点×2）

（ア）〔　　　　　　　　　　　〕

（イ）〔　　　　　　　　　　　〕

問2　傍線部①「おのれ」、②「この女」はだれのことを指しているか。最も適当なものをそれぞれ次から選べ。（4点×2）

ア

イ　物付き

ウ　周囲の人

エ　物の怪

①〔　　　〕

②〔　　　〕

問3　傍線部③とあるが、人々はどのようなことを疑っているのか。最も適当なものを次から選べ。（10点）

ア　物の怪に本当に子どもがいるのかということ。

イ　女が本当に物の怪に付かれているのかということ。

ウ　験者が本当に物の怪を追い払えるのかということ。

エ　物の怪が本当に「しとぎ」目当てなのかということ。

〔　　　〕

問4　傍線部④「さらになし」とあるが、その解釈として最も適当なものを次から選べ。（10点）

ア　前にあった以上には増えていなかった。

イ　少しだけなくなっていた。

ウ　ほとんどなくなっていた。

エ　全部なくなっていた。

〔　　　〕

問5　傍線部⑤とあるが、何がせたのか。本文から一語で抜き出せ。（8点）

〔　　　　　　　　　　　　〕

問6　「物の怪」の正体は何だったのか。本文から一語で抜き出せ。（8点）

〔　　　　　　　　　　　　〕

練習問題〈四段・上一段・上二段活用動詞〉

一　四段活用動詞「書く」の活用を書け。

①　書（　　）ず。　　未然形

②　書（　　）て、　　連用形

③　書（　　）。　　　 終止形

④　書（　　）時。　　連体形

⑤　書（　　）ども。　已然形

⑥　書（　　）。　　　 命令形

二　上一段活用動詞「見る」の活用を平仮名で書け。

①　（　　　）ず。　　未然形

②　（　　　）て、　　連用形

③　（　　　）。 　　　終止形

④　（　　　）時。　　連体形

⑤　（　　　）ども。　已然形

⑥　（　　　）。　　 　命令形

三　上二段活用動詞「ぐ」の活用を書け。

①　過（　　　）ず。　未然形

②　過（　　　）て、　　連用形

③　過（　　　）。 　　　終止形

④　過（　　　）時。　　連体形

⑤　過（　　　）ども。　已然形

⑥　過（　　　）。　　　 命令形

【解答】

問1　（ア）わずらいし　　（イ）言うよう

問2　①エ　　②イ

問3　イ

問4　エ

問5　しとぎ

問6　狐

【練習問題解答】

一　①か　　②き　　③く　　④く　　⑤け　　⑥け

二　①み　　②み　　③みる　　④みる　　⑤みれ　　⑥みよ

三　①ぎ　　②ぎ　　③ぐ　　　④ぐる　　⑤ぐれ　　⑥ぎよ